

糸田川 廣志

C：福島県 スパリゾートハワイアンズコース

福島県を訪れ、被災状況が、地形、地盤により異なることがさらに判った。津波は何回と寄せ引くことで、被災が増幅し、破壊力を持つエネルギーの動きであることもよく判った。

土木技術者、技術士として、過去の検証、先人達が伝えようとした物について、調べる大切さを再認識した。

津守神社の名は、先人達が残した我々への大きな遺産であるが、その伝承が活かされなかった今をどう考え、後世に伝えるか、技術者としても、考えさせられる。

東日本大震災後の調査で、先人達が伝えようとした事が多くあり、神社等の多くは浸水から、津波被災から逃れており、我々の検証は、しっかりすべきと実感した。

地盤沈下は、日常的に、浸水したり、水が引かないなどがあればよく判るが、海岸線の変化は前を知らない者には、理解がむずかしい。おそらく、風景は全く異なっていると感じるが、監視台と波打ち際の接近を見たのみの自分には実感はまだできていない。

津波被災は、一瞬で全てを失い、住む所と財も失うので、被災支援とりわけ国の支援（個人を補助しない）制度は全く無効である事がよく判った。ここを変えないと絆は言葉だけに終わるかも知れない。